

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

|         |                 |            |                 |
|---------|-----------------|------------|-----------------|
| 事業所番号   | 1194600134      |            |                 |
| 法人名     | 有限会社 ライフ・ワン     |            |                 |
| 事業所名    | グループホーム スワン     |            |                 |
| 所在地     | 埼玉県深谷市東方2873-5  |            |                 |
| 自己評価作成日 | 令和 4 年 3 月 20 日 | 評価結果市町村受理日 | 令和 4 年 5 月 20 日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

|          |   |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | <a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php</a> |
|----------|---|

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

|       |                           |  |  |
|-------|---------------------------|--|--|
| 評価機関名 | 有限会社プログレ総合研究所             |  |  |
| 所在地   | 埼玉県さいたま市大宮区大門町3-88 逸見ビル1階 |  |  |
| 訪問調査日 | 令和 4 年 3 月 28 日           |  |  |

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

「ゆっくり・一緒に・楽しく」を理念にしており、一人一人が自分のペースで日々の生活を送っている。少人数なので利用者様と職員が家族のように接する事ができて相談や悩み、日常生活で感じている事など気軽に話してくれる。食事3食、職員が手作りにしている。その人らしさを尊重しつつ、今の現状を少しでも維持できるようにケアをしている。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

平屋造りの少人数ホームであり、利用者本位での支援を基本としている。1ユニットであることの良さが随所に表れており、利用者から見ての子供世代と孫世代と一緒に、仲良く過ごす大家族ホームである。また、利用者にも大家族としての意識が浸透しており、新入居者に対しての気遣いや、自分のホームを住み心地の良い生活の場にしていこうとの思いがあるのは特徴でもある。食堂リビングから中庭へは、ウッドデッキを経て出ることができ、家庭菜園を楽しまれたり、陽射しを受けて庭木を楽しむのが日常的でもある。桜の木やレモンの木、そして今期が豊作だったミカンが利用者の話題の中心となり、「早く取らないと鳥に食べられてしまうよ」、「おいしいね!」等々で、コロナ禍での制約ある日々のなかにも楽しい時間が送られている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

| 項目 |  | 取り組みの成果<br>↓該当するものに○印  | 項目 |   | 取り組みの成果<br>↓該当するものに○印  |
|----|--|--|----|---|--|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる<br>(参考項目:23,24,25)       | ○<br>1. ほぼ全ての利用者の<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている<br>(参考項目:9,10,19)   | ○<br>1. ほぼ全ての家族と<br>2. 家族の2/3くらいと<br>3. 家族の1/3くらいと<br>4. ほとんどできていない    |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある<br>(参考項目:18,38)             | ○<br>1. 毎日ある<br>2. 数日に1回程度ある<br>3. たまにある<br>4. ほとんどない                  | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている<br>(参考項目:2,20)                     | ○<br>1. ほぼ毎日のように<br>2. 数日に1回程度<br>3. たまに<br>4. ほとんどない                  |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている<br>(参考項目:38)                   | ○<br>1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない    | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている<br>(参考項目:4) | ○<br>1. 大いに増えている<br>2. 少しずつ増えている<br>3. あまり増えていない<br>4. 全くない            |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている<br>(参考項目:36,37)    | ○<br>1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない    | 66 | 職員は、活き活きと働いている<br>(参考項目:11,12)                                      | ○<br>1. ほぼ全ての職員が<br>2. 職員の2/3くらいが<br>3. 職員の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない       |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている<br>(参考項目:49)                  | ○<br>1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない    | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う                                       | ○<br>1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない    |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている<br>(参考項目:30,31)         | ○<br>1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない    | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う                                   | ○<br>1. ほぼ全ての家族等が<br>2. 家族等の2/3くらいが<br>3. 家族等の1/3くらいが<br>4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている<br>(参考項目:28) | ○<br>1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない    |    |   |  |

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己                 | 外部  | 項目  | 自己評価   | 外部評価   |                   |
|--------------------|-----|---|--|--|-------------------|
|                    |     |   | 実践状況   | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| <b>I. 理念に基づく運営</b> |     |   |  |  |                   |
| 1                  | (1) | ○理念の共有と実践<br>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている  | ゆっくり・一緒に・楽しくを理念に掲げそれに基づき支援している                             | 代表者が開設時に掲げた理念を継承し、職員にも徹底され、日々の業務に浸透している。利用者本位として、個々のお茶時間でも一緒に寄り添い、また居室で食事を望まれる人へも希望に添う支援をしている。                   |                   |
| 2                  | (2) | ○事業所と地域とのつきあい<br>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している  | 新型コロナウイルスの影響のためできていない                                      | コロナ禍でもあり交流は少ないが、自治会へは加入し、回覧板での情報は得ている。ゴミ当番も順番制であり、集積場所の掃除等は利用者のお手伝いもある。看護学生の来訪はコロナ状況に合わせて続いている。                  |                   |
| 3                  |     | ○事業所の力を活かした地域貢献<br>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている  | 新型コロナウイルスの影響のためできていない                                      |  |                   |
| 4                  | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み<br>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている                                     | 新型コロナウイルス感染防止のためお便りの郵送になってはいますが実践状況を報告している                 | 大里広域市町村圏と相談し、書面開催として議事録を自治会長と民生委員、地域包括支援センターへ送っている。会議のお知らせは市役所へも提出し、各委員からの意見が寄せられるようお願いもしている。                    |                   |
| 5                  | (4) | ○市町村との連携<br>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる   | 生活保護を受けている方もいるので書類の提出など関係を築いている。                           | 大里広域市町村圏へは運営推進会議議事録を提出し、市役所の介護保険課や生活福祉課へは随時の相談で窓口へ出向いている。感染防止対策としてのマスクやグローブ、消毒液等の支給を受けている。                       |                   |
| 6                  | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践<br>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束をしないのは当然である。玄関の施錠は安全を守る上で内側から施錠しているが、利用者も開けられるようになっている | 当日の出勤者による職員会議や運営推進会議の話し合いの場で、拘束や虐待について確認をしての身体拘束廃止委員会を実施している。スピーチロックが疑わしい等は時に感じており、職員間での連携で「チョット待つ」を無くするようにしている。 |                   |
| 7                  |     | ○虐待の防止の徹底<br>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている                                      | 虐待や身体拘束はしない、変化を見逃さないという意識を持ち支援している                         |  |                   |

| 自己 | 外部  | 項目   | 自己評価  | 外部評価   |                   |
|----|-----|--|---|--|-------------------|
|    |     |  | 実践状況  | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8  |     | ○権利擁護に関する制度の理解と活用<br>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している    | 職員会議の話題に一部取り入れ話し合う                            |  |                   |
| 9  |     | ○契約に関する説明と納得<br>契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている                         | 契約時に契約内容を説明し理解していただき、最後に記名と捺印をもらう             |  |                   |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映<br>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている                     | 日頃から家族とのコミュニケーションを取り要望など気楽に話せるようにしている         | コロナ禍のため、家族の面会はガラス越しとしての理解を得ており、意見交換の場ともなっている。毎月の便りを発行している他、電話にて体調変化等の情報を伝える際に意見等を聞くようにしている。    |                   |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映<br>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている                                      | 日頃の問題点、気づいたことは連絡ノートに記入し解決に取り組んでいる             | 日々の業務の中でも提案等を聞いているが、やってみたいことや気付き、感じたこと等を連絡ノートに記入してもらい、共有のうえ相談している。早番と日勤者の業務分担についての提案を受け、話し合った。 |                   |
| 12 |     | ○就業環境の整備<br>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている      | 働きやすくするため勤務時間等、考慮している。年2回の賞与は正社員、パートともに支給している |  |                   |
| 13 |     | ○職員を育てる取り組み<br>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている         | 職員に介護に関する情報を共有し会議等で話あう                        |  |                   |
| 14 |     | ○同業者との交流を通じた向上<br>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 他の施設と意見交換を行う                                  |  |                   |

| 自己                         | 外部  | 項目   | 自己評価   | 外部評価  |                   |
|----------------------------|-----|--|--|---|-------------------|
|                            |     |  | 実践状況   | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| <b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b> |     |  |  |   |                   |
| 15                         |     | ○初期に築く本人との信頼関係<br>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | アセスメント表に基づき家族や本人の要望を聞き可能な限り応えるようにし、安心して暮らせるように支援している |   |                   |
| 16                         |     | ○初期に築く家族等との信頼関係<br>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている            | 困っていることや不安なこと等、内容を聞き信頼関係構築に努力している                    |   |                   |
| 17                         |     | ○初期対応の見極めと支援<br>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている        | 本人及び家族が求めている事を可能な限り対応し不安のない生活が送れるように支援する             |   |                   |
| 18                         |     | ○本人と共に過ごし支えあう関係<br>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている                        | 家族同様の信頼関係を構築すると共に信頼関係も築く                             |   |                   |
| 19                         |     | ○本人を共に支えあう家族との関係<br>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている         | 家族と何でも話せる関係を築き家族が悩む事がないように支える                        |   |                   |
| 20                         | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援<br>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている                     | 新型コロナウイルスのためできていない                                   | 利用者は、近所に住んでいた人が多く、以前一緒にお茶をしていた人等の来訪は多かったが、コロナ禍のため減っている。前から利用している床屋さんへ行く人は、娘さんが同行されてるが、回数も減っている。 |                   |
| 21                         |     | ○利用者同士の関係の支援<br>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている                 | 利用者同士のコミュニケーションを図れるよう支援し、レクリエーションや行事も全員参加ができる雰囲気を作る  |   |                   |

| 自己                                 | 外部   | 項目   | 自己評価                                       | 外部評価   |                   |
|------------------------------------|------|--|--|--|-------------------|
|                                    |      |  | 実践状況                                       | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22                                 |      | ○関係を断ち切らない取組み<br>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている                    | 家族から連絡があった場合は相談に応じています                     |  |                   |
| <b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b> |      |  |  |  |                   |
| 23                                 | (9)  | ○思いや意向の把握<br>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している   | サービス計画書の作成時に本人及び家族に要望を聞きそれに合わせた計画書の作成      | 入居前の実態調査で意向を聞いているが、入居後も寂しさや不安等聞くようにしている。個別支援の入浴時等に思いを聞くこともあり、連絡ノートで共有している。困難な人へは幾つかの例から選んでもらう。 |                   |
| 24                                 |      | ○これまでの暮らしの把握<br>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている                                       | 人生歴や生活環境を把握し生活指導をする                        |  |                   |
| 25                                 |      | ○暮らしの現状の把握<br>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている   | 本人に無理がないようお手伝い、レクリエーションや行事を行ない心身機能向上に努めている |  |                   |
| 26                                 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング<br>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 各居室に担当者を割り振り、日常生活の把握をし情報共有をしより良いケアを実践する    | 更新時期に限らず、身体変化等があれば見直しをしている。居室担当者を中心に、出来たことが出来なくなった等の意見を出し合い、訪問看護師等の意見も入れ、家族の希望も確認している。         |                   |
| 27                                 |      | ○個別の記録と実践への反映<br>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている                        | 利用者別に日中、夜間の様子を記録し職員間で状況を共有し今後の介護計画に役立っている  |  |                   |
| 28                                 |      | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化<br>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる               | 施設内のサービスに限らず変化に富んだ生活をして頂くよう取り組んでいる         |  |                   |

| 自己 | 外部   | 項目  | 自己評価  | 外部評価   |                   |
|----|------|---|---|--|-------------------|
|    |      |   | 実践状況  | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 |      | ○地域資源との協働<br>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している                                      | 近所のお寺に散歩に行き参拝者や近所の方と交流していたが新型コロナの影響できていない                 |  |                   |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援<br>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している                                  | 今まで通りのかかりつけ医の受診へ継続も可能で、施設主治医への変更が希望であれば診療情報提供書の提出により変更します | 訪問診療は月2回の来訪で看護師の同伴もある。従前のかかりつけ医を選んでいる人も、現在は訪問診療を利用されており、夜間の連絡も可能で指示を仰いでいる。入院時等は家族の同伴も願っている。                        |                   |
| 31 |      | ○看護職との協働<br>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している                          | 急変時の場合は主治医に連絡相談し指示をもらい対応する                                |  |                   |
| 32 |      | ○入退院時の医療機関との協働<br>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 日常的に主治医と連携を密にし急変時の場合に入院できるような関係を築いており情報交換に努めている           |  |                   |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援<br>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる  | 家族と話し合い家族と施設の協力体制を作り、家族の意向も十分に配慮し情報提供を行なう                 | 入居時に重度化指針を説明し、看取りも出来る事を伝えている。終末期を感じる頃には、家族と医師他による相談を行い方針を確認している。現在、訪問看護師が週2回来訪し終末期を送っている人もあるが、家族希望も自然で迎えたいとのことである。 |                   |
| 34 |      | ○急変や事故発生時の備え<br>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている  | 急変時や事故発生時には緊急対応策ができるよう周知徹底をする                             |  |                   |
| 35 | (13) | ○災害対策<br>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている  | 消防訓練をし防災に関する意識を高める。                                       | 年2回の自主訓練は、消防署から水消火器を借りての訓練で夜間想定もある。コロナ禍前では自治会長の参加もあった。水害時のハザードマップも確認し、避難経路では自治会長のアドバイスも受けている。                      |                   |

| 自己                               | 外部   | 項目   | 自己評価   | 外部評価   |  |
|----------------------------------|------|--|--|--|--|
|                                  |      |  | 実践状況   | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容  |
| <b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b> |      |  |  |  |  |
| 36                               | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保<br>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている                   | 一人一人、生き方や暮らし方が異なるのでその人らしくその人に合った生活ができるように言葉かけや生活指導に努める | 個人情報や事務所内の施錠棚で管理されている。代表者が準備した資料で理解を深めたり、大里広域での研修機会はある。利用者本位を基本とし、言葉かけや羞恥心への対応も出来ている。          | 一人ひとりの尊重とプライバシー確保についての研修はコロナ禍でもあり行き届いていない。内部研修の充実を検討し、動画等を利用して個別でも学ぶ機会が望まれる。 |
| 37                               |      | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援<br>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている                     | 利用者本位に物事を考え可能な限り自己決定して頂けるように努めている                      |  |  |
| 38                               |      | ○日々のその人らしい暮らし<br>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | その人に合ったペースで日常生活をしていただき、無理やり強制は行わない                     |  |  |
| 39                               |      | ○身だしなみやおしゃれの支援<br>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している                                  | 利用者の希望にそい衣類の選択をして頂き、散髪も定期的に行っている                       |  |  |
| 40                               | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援<br>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている     | 食べたい食材や食べたい食事のリクエストを取り入れて、新型コロナのため下膳のみお願いしている          | コロナ禍前は、利用者と一緒に農協へ食材を買いに行っていたが、今は職員が主体である。メニューへの希望は事前に聞き、要望に添っている。行事食ではテイクアウトを利用しており、お寿司の希望が多い。 |  |
| 41                               |      | ○栄養摂取や水分確保の支援<br>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている          | 栄養が偏らないように考慮し個別に食事量、水分量をチェックしている                       |  |  |
| 42                               |      | ○口腔内の清潔保持<br>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている                   | 毎食後、口腔ケアを援助し口腔内の清潔を保ち、必要に応じ訪問歯科にかかる                    |  |  |

| 自己 | 外部   | 項目  | 自己評価   | 外部評価  |                   |
|----|------|---|--|---|-------------------|
|    |      |   | 実践状況   | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援<br>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている                              | 定期的なトイレ誘導を行ないパッドやパンツを汚さないようにケアしている                         | 排泄チェック表を基に個々のリズムを把握している。声掛けは、小声で誘うがトイレとは言わないようにしている。昼間のオムツ利用者はバルーン使用の1名であり、オムツ外しを優先している。                              |                   |
| 44 |      | ○便秘の予防と対応<br>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる  | 個々に排便チェック表があるので水分量や食事などで調節している                             |   |                   |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援<br>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている                             | 基本的には入浴日は決めてあるが、本人都合で日にちの変更等ができる                           | 入浴日は曜日で決め、週2回としているが、男性で1人浴を望む人は、それ以上もある。同性介助への希望は添うようにしている。入浴剤を複数用意しており、色や香りを楽しんで貰っている。                               |                   |
| 46 |      | ○安眠や休息の支援<br>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している   | 午後はお昼寝時間ですが、無理にしないで良いので自由に過ごして頂いている。その他の時間にも休む方がいるので支援している |   |                   |
| 47 |      | ○服薬支援<br>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている  | 服薬は全て職員管理なので、毎回服薬援助をし誤薬や飲み忘れがないよう支援している                    |   |                   |
| 48 |      | ○役割、楽しみごとの支援<br>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている                             | 掃除、洗濯干し、洗濯たたみなどその人に合った役割をして頂く                              |   |                   |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援<br>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 新型コロナウイルスのためできていない   | コロナ禍のため近隣の散歩も自粛している。中庭で陽射しを浴び花を楽しむのは日常としている。桜の木やレモンの木、特にミカンが豊作で、利用者からは早く取らないと鳥に食べられると言われ美味しく頂いた。車ドライブでは車窓から季節を感じて貰った。 |                   |



| 自己 | 外部   | 項目   | 自己評価  | 外部評価   |                   |
|----|------|--|---|--|-------------------|
|    |      |  | 実践状況  | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 |      | ○お金の所持や使うことの支援<br>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している  | 家族からお小遣いとして預かり施設管理しており生活保護者のお金も全額施設管理のかたもいる |  |                   |
| 51 |      | ○電話や手紙の支援<br>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている   | 電話はいつでもできるようになっている                          |  |                   |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり<br>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 共有空間は室内の明るさや温度を調節し安心して過ごせるように支援している         | コロナ感染者も出たことより、換気を含め消毒や手洗い等を徹底した。利用者もマスク着用し協力があつた。工作の得意な利用者が装飾品に工夫を入れてくれ、雛人形や壁絵、塗り絵等で季節感がある。転倒防止の動線確保もなされている。 |                   |
| 53 |      | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり<br>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている  | 和室のドアが閉まるようになっており個人の空間も作れるようになっている          |  |                   |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮<br>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている  | 馴染みの物を持ってきていただき使えるようにしている                   | ベッドと空調機、タンス、カーテン、照明が備えてあり、他は使い慣れたものを持込んでいる。小物入れ類や家族写真等々で居心地の良い部屋となっている。掃除は、自分で出来る人はモップ掛けをおこなっている。            |                   |
| 55 |      | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり<br>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している   | 手すりを設置してあるので各自のできる力を使ってもらえるように見守りをしている      |  |                   |